

「せいか里山の会」設立趣意書

里山と人々との豊かな係わりをめざして

精華町では、けいはんな丘陵の山裾に集落が生まれ、背後の山と前面の田園地帯が一体となって稲作や炭づくりなど多様な営みを通じて、豊かな里山の景観と文化を育て今日に至りました。

最近では、けいはんな学研都市構想の具体化とともに、都市機能の集積、住宅地の形成、先端的な研究機関や企業の立地などにより、新住民が定着し、研究者など来訪者の増加が目立つようになり、新旧住民の交流、異なった文化の融合なども進みつつあります。

町の西部に広がる丘陵地域では、人との係わりが希薄になる中で、松枯れの広がりや竹林が繁茂して里山が荒廃し、人々が安全に里山に近づいたり自然に親しんだりすることができなくなる現実に直面しています。

地球環境問題への関心が高まる中、この地域でも里山の有する豊かな自然を保全・再生するとともに、次世代を担う子どもたちの遊び場、環境学習、癒しの空間を整えることへの欲求が高まってきました。また稲作など日本の伝統文化や生活様式の復活への期待も生まれています。

精華町では、平成19年度に公募による住民参加の里山づくりワークショップ（共同作業）が4回実施され、町有地を活用して住民と行政との協働による里山づくりに取り組みました。平成20年度には、こうした取り組みを踏まえて持続的な里山づくりの方策を具体的に検討するための準備会が6回開催されました。

これまでの準備会での議論を踏まえて、このたび東畑地区を里山づくりの先導的な活動拠点とし、さらに精華町全体の里山づくりを展望して、「せいか里山の会」を設立することとしました。多くの住民、関係者、関係団体のご参加を呼びかけるものです。

「せいか里山の会」は、次の取り組みを進めていきます。

- 住民と行政、関係者・関係団体との協働により、里山の保全・再生、利活用の取り組みを進めます。
- 教育関係、行政、研究機関、地域のさまざまな関係団体との連携により、次世代を担う子どもたちの自然とふれあう場や機会を整え、植生や生き物など里山をテーマとした環境学習を進めます。
- 散策やハイキングなど健康づくりやこころの癒しのための企画を進めます。
- 陶芸、工作、食と菓子づくりなどの地域の特性や住民のニーズを踏まえた文化的な取り組みを進めます。
- この取り組みを契機として精華町全体に広げ発展させるため、広報・情報発信、調査・研究とモニタリング、関係団体との交流と連携などを進めます。

以上